

第6回・第7回現地研修会を開催

旭川高専との技術交流・地域資源の活性化と保全管理の展開

例年、現地研修会を年1回行っていますが、3月に旭川高専と支部とで「相互協力協定」を調印したことがあり、例年になく年2回の研修を行った。

—第6回現地研修会—

1. 研修日程及び概要 (21名参加)

(1) 日時：2008年(平成20年)7月10日(木)
14:00～17:30

(2) 場所及び講義内容・講師

場所：旭川工業高等専門学校

- ① 校長挨拶 校長 高橋 英明
- ② 地域共同テクノセンターの活動状況
同センター長 土田 義之(会員)
- ③ 校内施設見学
- ④ 研究シーズ紹介
 - ・電気情報工学科 教授 小山 貴夫
 - ・制御情報工学科 教授 佐竹 利文
 - ・物質化学工学科 教授 富樫 巖(会員)
- ⑤ 講演：南極での体験報告
物質化学工学科 教授 古崎 睦

2. 校長挨拶

支部との協定、旭川高専の役割・技術交流の意義等。

3. 地域共同テクノセンターの活動状況

当センターでは、産学連携により地域の産業創生を目指し、民間企業等からの技術相談・共同研究等に応じている。事業としては、適任教員の紹介をするなど、各種研究制度の実施を行っている。

4. 校内施設見学

情報化時代のパソコンを駆使した授業、地域で貴重な工学図書があり一般開放実施の図書館、地域共同テクノセンター～3Dキャド教育を一般に無料実施

5. 研究シーズ紹介

①電気情報工学科(小山教授)～家計簿から大企業まで使える財務会計ソフトの開発 ②制御情報工学科(佐竹教授)～マルチエージェントシステムによるロボットアームの運動計算手法、交通シュミレーション開発 ③物質化学工学科(富樫教授)～バイオリジカル・コントロールによる木製土木構造物の不朽遅延技術開発

6. 南極での体験報告

昭和基地での研究生活活動、ドームふじでの3050m氷床コア掘削の成果(太古の空気等)、南極からの地球環境についてのデータ紹介

—第7回現地研修会—

1. 研修日程及び概要 (20名参加)

「地域資源の活性化と保全管理の展開」というテー



高橋校長 挨拶

まで先進的な取り組みを行っている旭川市内の施設や工場及び新技術を採用している施工現場を見学した。

(1) 日時：2008年(平成20年)8月29日(金)
10:00～17:30

(2) 場所および講師

- ① 旭川地方気象台
防災業務課 調査官 稲川 譲氏
- ② 旭橋塗装工事現場見学
旭川道路事務所第1維持課長 小森 一澄氏(会員)
- ③ 川のふるさと交流館「さらら」見学
旭川河川事務所 計画課長 京田 悟氏
- ④ 家具メーカー「カンディハウス」工場見学
生産技術グループ マネージャー 井上 一良氏

2. 旭川地方気象台

気象台の概要や予報官の業務内容及び北海道の気象の特徴、近年の温暖化の傾向等について講義を受けた。温暖化の進行に伴って、米の収量が減少し、りんご等の寒冷作物の適地が減少するなど様々な環境の変化が将来的に起こる可能性があるという話題提供もあった。



調査官 稲川氏の講演

3. 旭橋塗装工事現場見学

旭橋の再塗装工事では既存の塗膜を除去する工程で、塗膜や研磨材が飛散しない新技術(バキューム工法)を採用しており、新工法実演や仮設工等の工事現場見学を行った。この工法は飛散塵を出さないだけでなく、鉄粉の再利用が可能な工法であり河川内の施設の再塗装に有効であるため、今後の展開が期待されている。



施工会社伊藤塗工部によるバキューム工法説明

4. 川のふるさと交流館「さらら」

河川広報施設である「さらら」内を見学し、永山新川の治水管理システム、野鳥飛来の話、牛朱別川の治水対策として石狩川への放水路「永山新川」が施工された経緯等について講義を受けた。



京田計画課長による治水管理の説明

5. 家具メーカー「カンディハウス」工場見学

旭川の地場産業である家具工場を見学した。「カンディハウス」では欧米家具デザイナーとの連携からデザイン性を重視した製品に特徴があり、生産から



工場内での家具加工技術説明

販売まで自社で手掛けるなど先進的な取組みを行っている。

6. 終わりに

旭橋は昭和7年施工の鋼製橋で、今日まで適切に維持管理された「川の街」旭川の景観的シンボルであり、軍都として発展した街の歴史を偲ばせる施設である。鋼製施設でも適切に維持管理すれば長期間の耐用が可能であることを感じた。また、旭川高専は独法化の流れの中「地域への貢献」が求められ、

地元企業との共同研究や技術開発相談対応などの取組みを行っており、旭川高専自体が地域資源であると強く感じた。

今年の現地研修会は地域資源の活用と保全を考える上で参考となる事例が多く参加者からも好評であった。

最後に、見学にご協力頂いた各関係機関の方々にお礼を申し上げ、ご報告とします。

(文責：道北技術士会幹事 菅野 哲朗、山田 哲)